

赤十字NEWS 7

JULY.2023.#998

Japanese Red Cross Society NEWS

7月は「愛の血液助け合い運動」月間!

ケガをしたとき 輸血用血液の約80%が だけじゃない! 病気の治療に使われています!

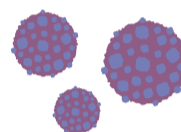
輸血が必要な治療のうち、

15.8%
循環器系の疾患



輸血が必要な治療のうち、

34.4%
悪性新生物(がん)



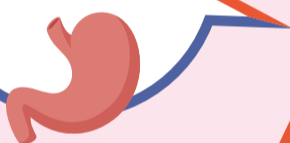
輸血が必要な治療のうち、

19.5%
血液および造血器の疾患



輸血が必要な治療のうち、

6.9%
消化器系の疾患



最も多いのが
がんの治療*
(悪性新生物)

1日あたり必要な
献血協力人数は?

1日平均
1万4000人



血液は人工で造れず、
長期保存もできない
んです!

「赤血球」は
採血後
28日間



「血小板」は
採血後
4日間



「血漿」は
凍らせて採血後
1年間



だから... 絶えず多くの方の献血協力が欠かせない!

特集 ▶ P.2 **ありがとう、こんなに元気になりました!**

*2021年 東京都/東京都福祉保健局調べ

TOPICS

日赤アンバサダー・上白石萌音さん
令和5年全国赤十字大会に登壇
令和4年度 決算概要 P.4-5

連載

そのとき、日赤はどう動く!?
国内災害救護 まるわかり辞典 P.4
今号から輸血にまつわる話を紹介!
輸血なるほどヒストリー P.5

AREA NEWS

[神奈川] 有名ホテルのシェフが献血を呼びかけ協力者に
焼き菓子とスープをふるまう
[三重] 「気づき・考え・実行する」
園児の発案で公園のトイレ清掃実施
[徳島] 赤十字施設に可憐な贈り物
4年ぶり、対面でのすずらん贈呈
/他 P.6-7

WORLD NEWS

一地震から1年一 窮地に立つアフガニスタン/
[共同声明]破滅的な結末を避けるために P.8

Present!!

徳島県支部
「阿波尾鶏骨付地鶏カレー
4個セット」

プレゼント!
6名様
詳しくは
P.7をCheck! ▶



特集

あなたの献血に支えられた命

ありがとうございます、こんなに元気にになりました!

全国の献血ルームや献血バスで集められた血液は、病気やケガなどで輸血を必要としている患者さんの尊い命を救うために使われます。今月の特集では、幼少期に白血病を患い、輸血に支えられながら病気を克服した渡辺湊也さんにインタビュー。闘病中のエピソードや献血の啓発に協力していく思いを伺いました。



最近の湊也さん(右)



わたなべ 湊也さん

Profile

2007年4月生まれの高校1年生。神奈川県座間市在住で、現在は県内の公立校に通う。小学生の頃からサッカーに熱中し、現在も高校の部活で「サッカー漬け」の日々をおくる。

自分のように病気と闘っている人たちが救われるなら……

1歳で急性リンパ性白血病を発症し、強い抗がん剤の投与を受けながら、1年4カ月の過酷な闘病生活を送った湊也さん。当時の記憶はおぼろげですが、それでも、「自分の呼びかけで、一人でも多くの方が献血に協力してくれるなら」と、勉強や部活動に忙しい毎日でも、献血の啓発には協力を惜しみません。彼をそこまで突き動かすものとは、何なのでしょうか?

病気が発覚したのは、1歳10カ月の頃。肌がとても黄色く、ぶつけてできたアザもなかなか治らない……。母・知子さんは、そんな湊也さんの様子が気になって近所の病院へ。しかし、そこでは原因がわかりませんでした。それでも気になって訪れた別の病院で、重度の貧血が発覚。白血病の疑いもあると伝えられ、紹介された小児の高度医療総合病院で再検査をした結果は、「血液のがん」と言われる白血病。骨髄移植を必要とする一歩手前の状態で、その日のうちに最初の輸血が行われ

ました。

「輸血の後、真っ黄色だった湊也の肌の色が変化し、血色が良くなる様子を見て、いかに深刻な貧血状態であったかを実感しました。入院中も、元気がなくベッドに横たわっていたのが、輸血の後に急に活発になる様子を何度も目の当たりに。幼くて言葉で表現できませんが、輸血によって体がラクになったのだと思います」と振り返る知子さん。3歳2カ月で退院するまで、湊也くんを支えた輸血は10回以上に及びました。

1歳10カ月



入院直後。黄色かった肌色も輸血の効果で回復。薬剤投与用のカテーテルの装着手術をする前左手の包帯下には点滴の針が

共に闘ってくれた家族への感謝そして「寛解」後も続く、緊張感

幼い湊也くんの病気との闘いは家族の闘いでもありました。強い抗がん剤の影響で食欲が落ち、口内に炎症も起こしていた湊也くんのために、お母さんが届けてくれた食事のことを湊也さんは何となく覚えています。

「母が持ってきてくれる納豆そうめんが大好きでした。それならおいしく食べられたから」

3歳2カ月



退院直前、一時帰宅中に、抗がん剤の副作用で抜けた頭髮も生えてきた。胸に刺したカテーテルの傷跡は今も残っている

一方、毎日病院に通うお母さん自身も苦しんでいました。病院から家に帰るときは湊也くんが大泣きされ、帰りの運転中は治療のことや今後の不安でいっぱい……。ついにあるとき、車の運転中にめまいがし、ひどい過呼吸を起こしてしまいました。

「母は救急車で運ばれ、それ以来、大きな車を運転できなくなってしまった。運転すると恐怖を感じるので、僕が退院するまで電車を乗り継いで通院するように。今は軽自動車なら乗れるようになりましたが、将来、僕が運転する大きな車に、母を乗せてあげたい。そして、母だけでなく父も祖父母も、座間市から横浜の病院まで交代で毎日通ってくれて、きっと大変だっただろう、と。まだ幼かった5つ上の姉は、母がずっと僕の付き添いで病院にいるので、寂しい思いもたくさんしたんじゃないかな……。家族には、感謝でいっぱいです」

元気に高校に通い、重い白血病を経験したとは思えないほどハツラツとした湊也さんですが、今でも半年に一度の検診は続いています。

「検査項目はたくさんあって、その一つ一つの結果に、主治医の先生が「OK」のチェックを入れてくれるのを、目の前で見守ります。全部OKだと「セーフ!!」とホッとするんです」

また、定期検診は、闘病中の子どもたちへの思いを強くする時間でもあるよう。

「この病院には、あの頃の自分と同じように病気と闘っている子たちがいるんだと思うと、その子たちを助けるためなら、自分ができることは全部やってあげよう!という気持ちになります。闘病を経験した自分が発信することで、より多くの人の心に届くことを願っています」

モットーは「一日を濃く生きる」できることは何でもやりたい!

2011年、闘病を経て4歳になった湊也くんは、神奈川県献血ポスターに登場。当時のJ1川崎フロンターレの選手たちと共演しました。

「人工芝のグラウンドに立ててうれしかったのを覚えています。プロの選手と交流したことが、サッカーを始めるきっかけにもなりました」

中学ではクラブチームに所属し、この春からは高校のサッカー部に入部。チームの要と

入学式



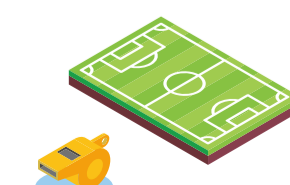
今年から神奈川県内の高校に通う湊也さん

なるボランチとしてレギュラーを狙うべく、休日も惜しんで練習に励みます。それだけではなく、興味のあるダンスにもチャレンジするほか、「高1の今こそ勉強を頑張るって人に差をつけたい」と、塾通いも欠かしません。

「忙しいほうが充実感があります。一日一日を濃くする」というのが自分のモットー。寝る前に「ああ、今日も一日頑張ったな」と満足感が味わえると、幸せな気持ちになるんです」

そんな湊也さんの将来の夢は、薬剤師や看護師など医療に携わる仕事。「サッカー部の友達が、両親共に持病があって自分もなってしまうのでは……と気にしているので、『そうになったらオレがサポートしてあげるよ!』と話しています」

そして、同じ病気で闘病する子どもたちへ向けると、「絶対いつか良くなると、前向きな気持ちを持ってほしい。今は家族と離れていても、いつかみんなでテーブルを囲んでご飯が食べられる未来を想像して、お医者さんを信じて治療を頑張ってほしいです」とメッセージを送り、「自分自身も、白血病を克服した患者の一人として、少しでも力になれるようこれからも献血を呼びかけていきたい」と決意を語りました。



献血の大切さを呼びかける動画「LIFE GOES ON」



献血ポスターの撮影から10年

昨年10月に神奈川県赤十字血液センターが公開したYouTube動画「LIFE GOES ON #4「あれから10年」献血のパスは今。」にも登場した湊也さん。10年前に献血キャンペーンのポスターで共演した元川崎フロンターレの選手や、同じく幼少期に重い病気を克服した仲間と共に、改めて献血の大切さを呼びかけた。

動画はこちら



“助けたい 思いが届く 献血で”

7月は「愛の血液助け合い運動」月間

日赤では、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」キャンペーンを行っています。各都道府県の関係団体や血液センターにポスターを掲示するほか、献血Web会員サービス「ラブラッド」を活用した予約の促進を行うなど、国民一人一人の理解を深めるためのさまざまな啓発活動が厚生労働省と連携しながら全国で繰り広げられます。

昨今は、少子高齢化社会や過疎化地域の増加などを見据えた若年層の協力強化が必要不可欠です。そのため、学生ボランティアやJRC(青少年赤十字)による街頭での呼びかけなど、若い世代に献血への理解と協力を求める運動も積極的に進んでいます。また「愛の血液助け合い運動」の一環として、例年、献血の推進や発展に顕著な功績のある方々が表彰される「献血運動推進全国大会」も開催され、今年は7月26日に千葉県で開催されます。安全な血液を安定的に患者さんに届けるために、みなさまの継続的な献血へのご協力をお願いいたします。



今年の啓発ポスター

献血ができる場所は



学生ボランティアの街頭での呼びかけ(長崎県、昨年の様子)

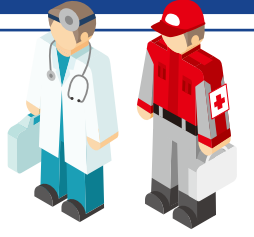


賞状を授与される日赤名誉副総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下(「献血運動推進全国大会」、昨年の様子)

SPECIAL FEATURE



T O P I C S



1 TOPICS

かみしらいし も ね 日赤アンバサダー・上白石萌音さん 令和5年全国赤十字大会に登壇



5月18日、明治神宮会館(東京・原宿)で開催された令和5年全国赤十字大会。今大会には、アンバサダーを務める上白石萌音さんも登壇しました。挨拶の中で、日赤の活動に関わるきっかけとなった昨年のCMナレーションについて、「当時はまだ新型コロナウイルスが猛威を振るって、世の中も自分の心も停滞してしまっているように感じていましたが、そんな中でも立ち止まらずに動き続けている日本赤十字社のみなさんのことを知り、とても心を動かされ、励まされました」と振り返りました。

アンバサダーとしての活動については、日赤職員と直接会ったときのエピソードに触れて、「働いていらっしゃる方々の顔がとても明るかったこと、その言葉の端々に強い責任感と人に寄り添う優しさを感じたことがとても印象的でした。その中のお一人が、『仕事をする中で一番うれしいのは、災害への備えを使うことなくひと月を終えられたときです』とおっしゃいました。この言葉に活動への切実な思いがにじんでいて、私は深い畏敬の念を抱きました」

と語りました。最後は、『赤十字は、動いてる!』というスローガンと共に、かけがえのない日常を守る日々の活動や現場の思いを多くの方に伝えていけるよう、精いっぱい努めさせていただきます」と、決意の言葉で締めくくりました。

大会後、日赤の名誉総裁である皇后陛下、ならびに名誉副総裁の妃殿下をお見送りする際には、しばしご歓談。皇后陛下と交わされた会話について、「壇上での挨拶についてねぎらいとお褒めの言葉をいただきました。『職員と直接お話ができるのはとてもいいことです』とお声もうれしかったです。お会いするまではとても緊張していたのですが、皇后様の目を見た瞬間に心がほどけていくのがわかりました。とても穏やかで気品に満ちていて、幸せな時間でした」と目を輝かせました。



そのとき、日赤はどう動く!?

国内災害救護 まるわかり辞典

日赤の救護活動についてさまざまな角度から紹介するコーナー。

今回は【被災地の人々に寄り添う「こころのケア活動」】です。

災害は人々の生命や財産に多くの被害をもたらすだけでなく、こころにも大きな傷を残します。さまざまなものを失った体験や避難生活による環境変化などにより、被災された方は大きなストレスを感じることもあるため、日赤は、被災地における救護活動として、医療救護班の派遣や救援物資の配分などと共に被災された方々への「こころのケア」を重要な柱の一つとして位置付け、実際に活動を担当する「こころのケア要員」の養成に力を入れています。

こころのケアと聞くと、精神的に大きなダメージを受けた人を対象とするものだと思われるかもしれませんが、救護所や避難所に来ら



避難所で活動するこころのケア要員

れる方、自家用車で避難生活を送っている方、壊れた自宅に留まっている方、また、被災自治体の職員やボランティアなどの支援者も含め、被災地の全ての方々に必要な活動です。

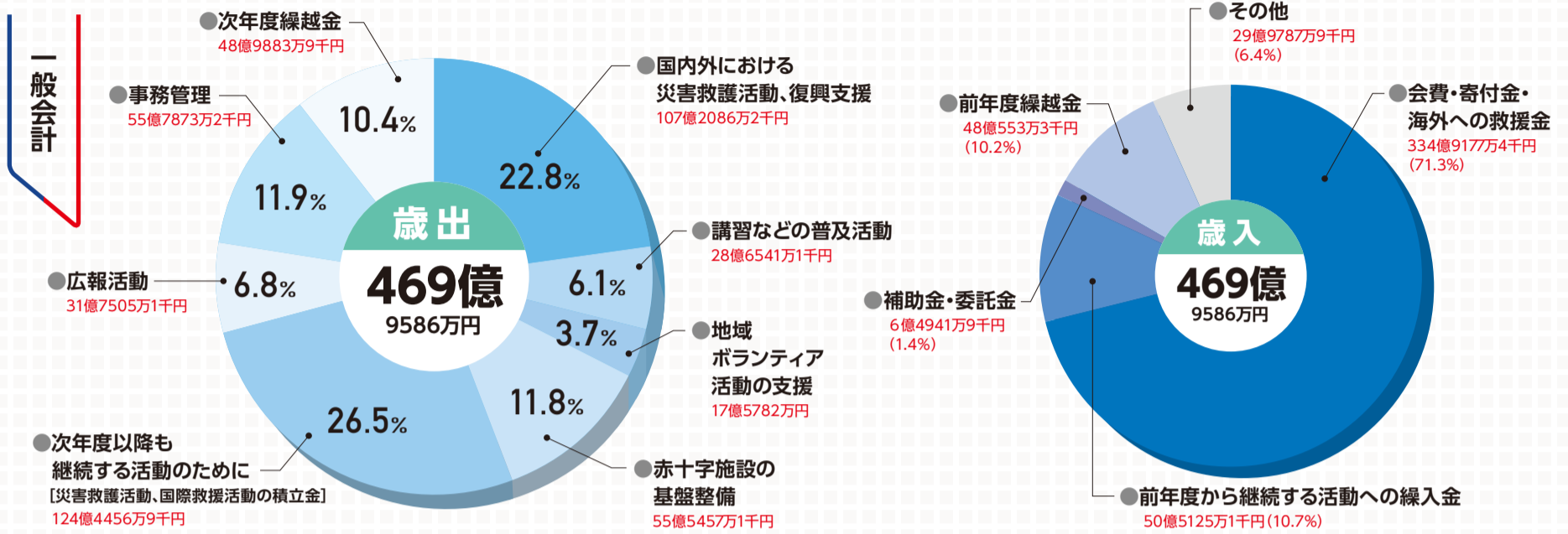
日赤のこころのケア活動は、精神科医や臨床心理士などの専門

家が実施する支援ではありません。研修により必要な知識や技術を身に付けたこころのケア要員が、被災者の健康や身近な悩みなどをお聞きすることにより、安心感を築いていく心理的な支援と、ハンドケアや足浴などのリラクゼーション、子どもの遊び場の設置、ストレス対処法の広報活動などの社会的な支援も柔軟に考えて活動する特徴があります。必要に応じて、専門的な支援への橋渡しを行うことも重要な役割となります。

日赤では、この活動を効果的に実施するために、こころのケア要員を医療救護班に帯同させたり、本活動に特化したこころのケア班を編成するなど、被災地の状況に応じた活動を継続的に実施しています。

令和4年度 決算概要

令和4年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計(医療施設、血液事業、社会福祉施設)をあわせて総額1兆5000億円を超える予算規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳出歳入は以下のとおりです。



注1) 本社・支店間で重複計上されている28億261万75千円については、歳出・歳入から差し引いて表示しています 注2) 医療施設特別会計から一般会計への償還金90億円については、歳入・歳出から差し引いて表示しています 注3) 千円未満を切り捨てているため、歳出と歳入それぞれの各項目の合計額と表示している合計額は一致しません

全額を被災都道府県に設置される義援金配分委員会へお送りいたします **災害義援金^{※1・2} 8億3443万8千円**

※1 前年度からの繰入金等を含んでいます
 ※2 義援金が日本赤十字社の活動資金や事務経費に使われることは、一切ありません

特別会計

医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営に伴う収入・支出です。

収入：1兆2391億5999万5千円

支出：1兆1696億7654万4千円

差引額：694億8345万1千円

血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収入・支出です。

収入：1659億83万円

支出：1637億6169万3千円

差引額：21億3913万6千円

社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う歳入・歳出です。

歳入：190億2730万4千円

歳出：147億9000万8千円

差引額*：42億3729万6千円

注1) 差引額は千円未満を切り捨てているため、差は一致しません 注2) 収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額は「収益的収入支出差引額」のことです(*の差引額を除く)
 令和4年度収支決算の特殊要因：新型コロナウイルス感染症対応のための医療機関に対する補助金が交付されました(約1100億円)

命を救う輸血に向けた先人たちの歩み 正しい手法が確立されていない時代の試行錯誤

医療目的で輸血が試みられた古典的な事例として、1667年にフランス国王ルイ14世の侍医が、4人の貧血と高熱で苦しむ患者に子羊の血液を輸血した記録があります。結果として、副作用により患者は真っ黒な尿を出した末に死亡。この出来事をきっかけに輸血禁止令が出され、19世紀に入るまで輸血の記録は残っていません。

人から人への輸血の最初の成功例とされているのが、産業革命と共に近代医療の黎明期であった1827年、イギリスの産婦人科医ブランデルによって行われた、弛緩出血で死に瀕する産婦たちへの輸血です。ブランデルは、独自の輸血器を使って産婦

の夫の血液を投与することを試みました。この輸血器は、和式トイレのような形の血液の受け皿から真鍮製のチューブが下がり、その先端は尖らせた銀製の部品となっています。ブランデルの弟子が未消毒のナイフで夫の肘の動脈を切開、あふれた血液を容器に受け、チューブの先端を産婦の肘の静脈に差し込む形で輸血は行われました。結果として10数名のうち半数が救命されましたが、これはABO式血液型を無視して輸血したときの成功率と同程度の割合でした。また、未消毒ナイフによる切開に

よって傷口は腫れあがったといいます。当時は、ABO式の血液型が発見されておらず、抗凝固剤や消毒法がない中で、今から見ればとても無謀な行為でしたが、これ以降も輸血の試行錯誤は続けられ、近代の輸血手法の確立へとつながっていきます。



ブランデル医師が実施した輸血の様子(イメージ図)

輸血の歴史やトリビアが満載!
輸血なるほどストーリー
 vol.1
 監修 日本輸血・細胞治療学会名誉会員 高本滋先生

今回から新しく始まった輸血にまつわるさまざまなエピソードを紹介する連載コーナー。その第1回は最初の輸血の成功例について、当時のエピソードを紹介していきます。

AREA NEWS

エリアニュース



全国各地、あなたの生活のすぐそばで日本赤十字社の活動は行われています。

神奈川

有名ホテルのシェフが献血を呼びかけ 協力者に焼き菓子とスープをふるまう



神奈川県赤十字血液センターでは、全日本司厨士協会神奈川県本部の協力のもと、JR桜木町駅前献血活動を実施しました。横浜市内の名だたる8ホテルが協賛し、シェフたちがコックコート姿で献血の協力を呼びかけ。協力者には、焼き菓子と「チーズデニッシュ&新玉ねぎのクリームスープ」のセットがプレゼントされました。同本部会長で、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル総料理長の齊藤悦夫シェフは、「一人でも多くの方に献血に協力してもらえよう、これからも協会をあげて頑張ります」と語りました。



各地イベントで赤十字ブース出展 義援金や防災・減災の呼びかけ



▲石川 オートバイイベントに赤十字ブースを出展



▲千葉 救急車(災害救援車両)の乗車体験イベント ▲福井 炊き出しの無料配布では3日間を通してさまざまなメニューを提供

行楽シーズンの5月、全国各地で行われたイベントに、赤十字ブースが多数出展しました。日赤福井県支部では、ゴールデンウィークに開催された「はたらくクルマ大集合 2023」にて、「もっとクロス! 赤十字展」を開催。救援物資を運ぶトラックの展示や赤十字の活動パネル展、防災グッズの作製ブース設置などを実施。炊き出しの無料配布には行列ができ、大勢の人に災害時の食事を体験してもらうことができました。お隣り石川県支部は、5月20日~28日に開催された日本最大のモーターサイクルスポーツライダーイベント「SSSTR(Sunrise Sunset Touring Rally)」に参加。コラボステッカーの配布や救援物資の展示のほか、「令和5年5月能登地方地震災害義援金」の募金活動を行い、たくさんの善意が寄せ

られました。千葉では5月21日、ジェフユナイテッド市原・千葉の試合会場にて、千葉県支部による救急車(災害救援車両)の乗車イベントを実施。サポーターのみなさんに車内を見学していただき、車内装備や災害時に被災地で行う医療救護活動について紹介しました。また、子どもたち向けの救護服を着ての写真撮影会も好評を得ました。その他、埼玉県支部では5月27・28日、越谷市で行われた「レイクタウン防災フェス2023」にブース出展。防災フェスは、6月3・4日、宮崎県のイオンモール都城駅前店でも開催され、宮崎県支部も参加。また、高知県支部は5月28日、「令和5年度高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバル」に参加。香川県支部は5月の「世界赤十字デー」、「赤十字運動月間」に合わせて、「赤十字フェスタ2023」を開催し、長蛇の列ができるほどの人気でした。

三重

「気づき・考え・実行する」園児の発案で公園のトイレ清掃実施



5月29日、「三重県青少年赤十字(JRC)活動報告会」が開催され、JRC加盟校である「認定こども園 杜の街ゆたか園」も、公園のトイレ清掃の活動報告を行いました。園では、一人の園児(5歳)の「散歩に出かける公園のトイレが汚いから使いたくない」という言葉をきっかけに、「きれいにしよう!」と、みんなの意見が一致したこと、そして、掃除をするために必要なものやその方法を考え、トイレ掃除を実行した様子を報告。園児たちは、「これなら使える!」「もう汚さないようにしないと!」と清掃を通して、きれいに使う大切さに気付いたようでした。

徳島

赤十字施設に可憐な贈り物 4年ぶり、対面でのすずらん贈呈



今年もANAグループから全国51カ所の赤十字病院や関連施設などの利用者に「すずらんの花としおり」が届けられました。この贈り物は同社の社会貢献活動の一環として、昭和31年から続いています。5月23日、徳島赤十字ひのみ医療療育センター*で、対面では4年ぶりとなる贈呈式を開催。すずらんは、北海道千歳市近郊で咲いたものを空輸で運び、しおりには、手書きのメッセージとイラストも添えられています。附属乳児院の入所児たちはうれしそうに切り花の香りを楽しんだり、「見て!見て!」としおりを見せあっていたりしていました。

*病院機能を持つ障害者福祉施設として、外来診療やリハビリを行う。附属施設に障害者支援施設や乳児院がある

常任理事会開催報告

令和5年6月22日、令和5年度第3回の常任理事会が開催されました。その結果は下記のとおりです。

記

- 理事会に付議する事項について
 - 規則の改正について
 - ア.日本赤十字看護師養成規則の一部改正
 - イ.日本赤十字社看護センターの受託廃止について
 - 理事会及び第102回代議員会に付議する事項について
 - 役員選出
 - 令和4年度事業報告及び収支決算の承認

審議の結果、上記1については原案のとおり理事会に、上記2については原案のとおり理事会及び第102回代議員会にそれぞれ付議することが承りました。

代議員会審議結果報告

令和5年6月23日、新霞が関ビル(全社協・灘尾ホール)において開催された第102回代議員会における審議結果は下記のとおりです。

令和5年7月1日
日本赤十字社

記

- 第1号議案 役員選出について
 - 理事2名、監事1名が次のとおり選出されました。
 - 理事 花岡利夫 浅津知子
 - 監事 金和明
- 第2号議案 令和4年度事業報告及び収支決算の承認について
 - 原案のとおり議決されました。

理事会開催報告

令和5年6月23日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において令和5年度第1回の理事会が開催されました。審議結果は下記のとおりです。

記

- 付議事項
 - 規則の改正について
 - ア.日本赤十字看護師養成規則の一部改正
 - イ.日本赤十字社看護センターの受託廃止について
 - 第102回代議員会に付議する事項について
 - 役員選出
 - 令和4年度事業報告及び収支決算の承認

審議の結果、上記1については原案のとおり議決され、上記2については原案のとおり第102回代議員会に付議することが承りました。

⑥7月号読者アンケート 質問項目

[A] 赤十字の活動の中でよく知っている事業はどれですか
 ア.国内災害救援 イ.国際活動 ウ.赤十字病院
 エ.看護師等の教育 オ.献血(血液事業)
 カ.救急法等の講習 キ.青少年赤十字
 ク.赤十字ボランティア ク.社会福祉
 ※上記選択からア~ケの文字をご記載ください。複数選択可

[B] 今回、赤十字NEWSを読んで、赤十字の活動の中で理解が深まったのは上記ア~ケの事業のどれですか
 ※複数選択可

[C] 赤十字NEWSの適切な大きさは
 ア.今のまま イ. A4サイズ
 ウ.小冊子(A5 148×210mm) サイズ

[D] 現在の赤十字NEWSの読みやすさ
 ア.読みやすい イ.読みにくい:その理由(文字量が多い/少ない、レイアウトが悪い、写真が多い/少ない、ページ数が多い/少ない)

[E] 赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか
 ア.月に1回 イ.2カ月に1回 ウ.3カ月に1回
 エ.4カ月に1回

[F] その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望

埼玉

「川の氾濫から命を守るために」水防訓練で関係機関との連携確認



5月27日に開催された、国土交通省および埼玉県深谷市主催の第71回利根川水系連合・総合水防演習に、埼玉県支部および深谷赤十字病院救護班が参加しました。演習は、川の氾濫により取り残された方を警察や消防、自衛隊がヘリコプターなどで救助し、埼玉県支部の救護所に搬送。重症度に応じてトリアージを行った後、必要な処置に関する実践演習が行われました。また、深谷市赤十字奉仕団が自衛隊の炊き出しをサポートし、2000食のカレーライスを提供。おいしいカレーライスは、参加者に好評を得ました。この演習の様子を動画で公開中です。

動画はこちら



奉仕団の炊き出し: 2時間41分頃~
赤十字救護班の訓練: 3時間14分頃~

「令和5年台風第2号等大雨災害義援金(静岡県、茨城県、和歌山県、埼玉県)受け付け中

日赤では、2023年6月2日からの梅雨前線と台風第2号による大雨により、静岡県、茨城県、和歌山県、埼玉県などに多大な被害をもたらした「令和5年台風第2号等大雨災害」への義援金を受け付けています。お寄せいただいた義援金は、全額を被災地の義援金配分委員会にお送りします。皆様のご支援をお待ちしております。

受け付け中

「令和5年台風第2号等大雨災害義援金」
●受付期間:令和5年9月30日(土)まで

※金融機関の営業日によっては、受付期間外の振込となる可能性があります。ご注意ください

ご支援はこちら ▶

Present!!

食の視点から地域の防災や環境意識の形成に取り組む

徳島県を拠点として創業から約60年にわたり、人々が安心できる食品を提供し続けている株式会社丸本。同社では、「消費者志向自主宣言」を掲げ、地鶏の阿波尾鶏を始め「愛される商品づくり」に尽力する一方、さまざまな社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。日赤には、毎年の寄付に加え、従業員による献血への協力や赤十字寄付型自動販売機の複数台設置など、会社全体での支援を継続。また、震災時の一次避難所としての登録や食糧・水・燃料を供給する協定を自治体と締結している他、日赤の災害用移動炊飯器の設置、普通救命講習の実施といった防災意識を育む取り組みにも力を入れています。この他、河川清掃制度である徳島県OURリバーアドプト事業への参画など、環境面や食品事業における衛生的な視点を持ちながら、地域と共に発展していくことを目指しています。

※徳島県内の県が管理している河川を清掃する制度。清掃回数は年3回以上、参加資格は徳島県内に所在地を有する団体又は企業となっている

プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・WEBでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS7月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥7月号読者アンケートの回答(質問項目は右上の赤枠内)

※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします

郵送/〒105-8521東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS7月号プレゼント係
WEB応募/右の2次元コードからご応募ください。
7月31日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代させていただきます

ご応募はこちら ▶





アフガニスタンってどんなところ?

アジア大陸のほぼ中央に位置する山岳地帯が広がる多民族国家。さまざまな国に接し、複雑な歴史や宗教的背景を抱える。国内の政情不安や長年にわたる紛争によって難民が生まれ、多くの人々が支援を必要としている。

—地震から1年— 窮地に立つアフガニスタン

昨年6月22日にM5.9の地震が発生したアフガニスタンでは、アフガニスタン赤新月社および国際赤十字が連携し、被災者支援を行ってきました。震災前の2021年8月から継続している政情不安や経済危機なども影響し、かつてないほどの人道危機に瀕している状況にあります。今回は同国の現状についてお伝えします。

地震災害後の赤十字による支援と復興に向けた困難な現状

2022年6月22日にM5.9の地震がアフガニスタン南東部で発生し、1036人が死亡、2949人が負傷。地震により家屋や保健医療施設、学校や水道などインフラにも大きな被害が発生しました。日赤では同地震の救援金を募集(2022年9月末で終了)。緊急資金援助と集まった救援金の合計、約3426万円が日赤から送金され、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)を通じて緊急救援および復興支援に充てられています。

また、国際赤十字はアフガニスタン赤新月社と協働して地震発生直後から多方面にわたって支援を実施。2023年1月末現在、**1万9984人に保健医療サービスを提供**したほか、**5万6444人に多目的に使用できる現金を給付**するなど、当面の生活の立て直しを後押ししました。建物の甚大な被害に対しては、これまで**3万5141人に家屋修繕キットを提供**するなどの支援を行いましたが、家屋が倒壊した全ての被災者へ支援を届けるのは困難だった



家屋を修繕するために現金給付を受けた被災者©IFRC

ため、数百世帯が避難先で厳しい冬を乗り越えるための支援も同時に展開しました。

人口の半数以上が人道支援を求めている

アフガニスタンは人口の55%が人道支援を必要としています。すでに悲惨な経済状況にもかかわらず、経済制裁が追い打ちをかけ、男女共に仕事を得る機会が減少する中、物価は高騰。さらに、アフガニスタンの人々を苦しめているのは適切な医療を受けられない現状です。医療従事者たちは、命を救うために毎日最善を尽くしていますが、数十年にわたる**紛争と長引く経済的苦難の結果、何千もの医療施設では資金難に直面し、必要なケアを提供することが難しい**実情があります。

脳性麻痺が前年度比約50%増加 子どもたちを救うためのさらなる支援の必要性

同国の首都カブールにある赤十字国際委員会(ICRC)のリハビリセンターでは2021年

に脳性麻痺の新患者数が1125人であったのに対し、2022年は1672人と50%近く増加しました。同センターで小児科部長を務めるムリド・アフマド・ラセク医師は、「貧困やトラウマ、加えて妊婦が必要な情報の入手が困難なことや定期検診を受けられないことが、乳幼児が脳性麻痺になってしまう原因となっている」と語ります。同センターでは、毎月1000人以上の脳性麻痺の子どもたちを診察しており、2023年1月現在も1200人以上が待機リストに載っています。ラセク医師は「症状は子どもによって異なります。筋力の弱さやバランス感覚の欠如、座位・歩行などが難しいだけでなく、てんかんや視覚障害、言語能力および知的障害など、さまざまな症状が見られます」と子どもたちの厳しい状況について続けます。**アフガニスタンの人々が多くの人道危機を乗り越えていくために、さらなる国際社会の関心と支援が求められています。**

アフガニスタン人道危機 救援金受付はこちらから >>>



アフガニスタン赤新月社は国際赤十字と連携して定期的な毛布やせっけんなど生活物資を配布している©IFRC



子どもを診察するリハビリセンターのスタッフ。毎月1000人以上が通院している©ICRC

共同声明 破滅的な結末を避けるために

国際社会における核兵器廃絶を目指す、赤十字国際委員会(ICRC)と日本赤十字社の世界へ向けたメッセージ。今、改めて私たちが考えるべき大切なこととは。

2023年5月に広島で開催されたG7サミットを機に、ICRC総裁のミリアナ・スポリアリッチと日赤社長の清家篤が、核兵器廃絶へ向けた声明を発表しました。その声明文の一部をご紹介します。

「G7のリーダーたちが広島に集う今このときこそ、世界の人々は、1945年に2度の原爆投下によってもたらされた恐怖を思い起こすべきです。人類の生存のために、私たちは、破滅的な影響と取り返しのない被害をもたらす兵器を世界からなくさなければ

なりません。そのためには、国際社会による緊急かつ断固とした行動が必要とされています。(以下略)」

この声明では、核兵器廃絶に向けて、核兵器禁止条約の批准、威嚇の非難、即応体制の解除、国際法上の義務や公約の履行等、全ての国に行動を呼びかけました。来月で原爆投下から78年が経ちますが、核兵器のリスクが高まっている昨今、この呼びかけが現実のものになるよう引き続き取り組んで参ります。



赤十字国際委員会(ICRC) 総裁 ミリアナ・スポリアリッチ



日本赤十字社 社長 清家 篤



Dialogue on Nuclear Weapons

赤十字に残る、核兵器と向き合った者の「言葉」(日本赤十字国際人道研究センター刊)

2023年3月、赤十字に残る核兵器と向き合った者たちの「証言集」が刊行された。こちらは右の二次元バーコードより閲覧が可能▶



「共同声明」全文掲載はこちらから >>>

